

『俺たちは鉄路に生きる』

1986年
3月~10月

第二報

宮島義勇・監督
16ミリ・カラー、2時間

12.10 千葉

封切り上映会大成功

日刊 動労千葉

86. 12. 16

No. 2432

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七〇七

「俺たちは鉄路に生きる」第二報の「封切り上映会」は十二月十日、千葉県自治会館ホールにおいて十八時より開催され、組合員、家族、そして多くの労働者、学生など三三〇名が結集、大成功をおさめた。



組合員、家族、県労連傘下の各単産、住民、学生330名が結集、挨拶に立つ中野委員長（12月10日、千葉県自治会館）

「第二報」をもって新たに全国へ

「封切り上映会」は、動労千葉・吉岡執行委員が開会に先立って、「第一報全国上映運動は全国七二ヶ所、一万一千人以上の参加をかちとり上映会を契機に国鉄労働者支援の運動体が各地でつくられるなど『分割・民営化』反対にむけて大きな成果をかちとってきた。本日の第二報上映会を皮切りに、上映運動を通してさらに反対の世論をつくりあげたい」と報告した。

続いて、動労千葉・中野委員長より主催者を代表し、「第二報がいい時機に完成し、国鉄をめぐる攻防戦が最後のヤマ場にさしかかったいま、勝利へむけてこの映画、物販運動をもって全国へ、仲間との交流を求めていきたい」と挨拶した。

一点の火花が燎原の火へ

「これが膨大な工事費をつかっただまま放置されている成田新幹線、自民党の党利党略と無能な国鉄官僚たちの無駄づか

いでつくりだされた国鉄赤字の確かな証拠がここにある……」とのナレーションが映像とともに流れだした。

いよいよ待望の「第二報」上映が開始された。

二波のストライキにたいする二八名解雇、四百名もの大量報復処分をのりこえ第三波ストと、国労の実力決起をめざして不屈に闘いぬく動労千葉組合員と家族の闘いと生活が生き生きと写し出されていく。この、わずか一千名組合員の闘いは、ついに全国に拡大していった。怒りのハンスト、国労臨大の偉大な勝利をよびおこし、国会デモから順法へと反撃がはじまった。

若いスタッフが中心となつて

二時間の上映が終了後、映画製作スタッフを紹介され、宮島義勇監督より「挨拶をとということだが、話すことは全部スクリーンに写してある。第一報と違うのは若いスタッフが中心となっている。若い人達がわれわれの旗を受けつこうとしている。苦しい闘いの中の動労千葉も同じだ。それは、風が吹けば吹くほど旗は大きく美しくひるがえるということを示してくれた」とスタッフを紹介しながら話された。

動労千葉・家族会の林さんより宮島監督に花束が贈られ、

「第二報封切り上映会」は大成功のうち



『第二報』上映会

12/10 千葉、12/12 大阪、
12/18 PM 6:00 京・南都労政会館
12/19 横濱・水産会館
12/25 正午 広島労働会館
その他、各地で予定中!!